

アジアトライアスロン選手権2021廿日市
(広島県廿日市市)

報 告

日 時:2021年4月25日(日)

スタート:9時10分(2人5秒刻みローリングスタート方式)

参加者数:250人

距 離:スタンダード(51.5km)スイム低水温のため750mに距離短縮

結 果:総合18位(年齢別2位) 総合タイム 2時間06分10秒

[https://www.jtu.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2021/04/21ASTC-hatsuk
aichi_age_result_210427.pdf](https://www.jtu.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2021/04/21ASTC-hatsuk
aichi_age_result_210427.pdf)

スイム750m 11分46秒(18)

バイク40km 1時間12分33秒(29)

ラン10km 41分51秒(24)

今シーズンに入り2レース目であったが、地元広島県内で最高峰のレースと在り、いやが上でも意識していた。完全な状態で臨みたいと思う反面なかなかそれが難しい。できる限りの携わる人たちにの力も借りた。

食事、宿泊、コンディショニング(新屋カイロ・かんスポーツ・ファイテン酸素カプセルなど)多くの方々の力を頂いて臨んだ。

2週間前の疲労がないわけではないが、フレッシュな状態だと思っている。しかしその感覚とレースは別物で、各所でミスやトラブルが発生した。30年近く競技をしていても完全レースがないのがトライアスロンなのだろう。

今回は閉鎖的な状況下で開催され致し方がない部分はあったが、コースの熟知が出来なかったのは大きかった。初めての内容のメカトラブル(バイクスタート直後に事故検出されサイクルコンピュータが停止=今回のコースでメータを管理できなければアウト。停止してでも修正した。

今回は県内ということもあり多くの知人友人も参加され、私の発案したウェアを多くの選手が着用してくれ、そんな姿を見るとレース中でも声をかけたくなるもので、ある意味レース本来の集中力は欠けていたに違いない。地元開催の定めと自身は判断している。これはプロマインド・アスリートとしては当たり前前の行為だと自負している。ただのプロアスリートではこんなことはできない。

私らしくていいのではないかとも思っているが、しかし勝負に負けるということはやはり心は穏やかではない部分も感じている。ここからはこの部分にこだわっていく、追求していくシーズンにもしていきたいと思っている。

今シーズンがコロナ禍の中でどのように動くのかはわからないが、すべてを受け入れて動いていかななくてはならないだろう。

9月の世界選手権へ向けて、永きにわたる夢をかなえる総決算を目指したい。

アメリカ合衆国開催!・・・「待ってる世界!」

今後とも夢の実行へと努力を積み上げていきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

プロマインド トライアスリート 福元テツロー

